あゆみ坂

校訓／教育目標
誠実　明朗　協調　勇気
自立心と感謝の心をもち、
進んで他者や社会に貢献する生徒の育成
～笑顔の登校・感謝の下校～

宇城市立小川中学校
令和７年度22号
（11．14）
文責 岩田　雅子

意識を変える

11月７日、「くまもと障害者労働センター」代表の倉田哲也さんを講師としてお招きし『人権教育講演会』を開催しました。

倉田さんは、生まれつき腕や手に障害をもっています。そのため、全ての作業を足で行い、車の運転もスマホも足で使いこなされています。現在、障害者労働センターの代表として働きながら、障害のある人のことを理解してほしいと全国各地で講演をされています。本校の生徒たちも、倉田さんの講話からたくさんのことを学ぶことができました。

私は、倉田さんの話を聞いて、倉田さんは最初からできないと決めつけるのではなく、まずやってみることから始めていてすごいなと思いました。私が一番心に残った言葉は「どうせ」から「せっかく」にということです。どうせできないから諦めるのではなく、せっかくできるんだから挑戦するということを心に私も挑戦していこうと思います。健常者も障害者も同じ人間です。見た目で判断するのではなく、相手のことを知って、みんなの人権を大切にしていきたいです。倉田さんが言う通り、憲法が変わるのは違うと思います。平和な世界を目指して、これからのことを考えたいです。　【 1年　2組　西村　明香里 】

私は、講話の中で「健常者という言葉は差別的であり、語弊がある」という話がとても印象に残っています。差別をなくすためには、周りとの違いを恥じない、普通という概念を壊す必要があると考えました。これまで私は、障害を持っている方が克服のために努力することに違和感なく過ごしていましたが、私たちが差別をなくすために努力するべきなのだと気づきました。これからは違いを見つけても自分らしく、他人に関心をもって生きようと思います。　【 2年　4組　嘉悦　乃心 】

私は、今日の講演を聞いて、障害をもっているからできることも減ったりするのかなとか、かわいそうだなと思ったことがあったけど全然そんなことはなくて、私の偏見なんだと知ることができました。障害があるからとマイナスに考えるより、せっかくだからとプラスで前向きに考えられることのすごさやみんなそれぞれ違うことを恥ずかしいことではなく、当たり前だと思うことの大切さを知ることができました。これからの生活では、周りから何か言われるんじゃないかと怖がらず、自分らしさを大切にして頑張って行きたいです。

【 3年　2組　西川　ほのか 】

私たちの周りには、多くの差別があります。『子どもの人権問題』『同和問題』『水俣病をめぐる人権問題』『ハンセン病回復者等の人権問題』『性同一性障害や性的マイノリティの人権問題』『障がい者の人権問題』などなど。その差別心が『いじめ』を生み出したり、人を追い込んだりしているのです。

お互いのことを理解し合い、人を差別しない小川中学校をみんなで目指していきましょう。